

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年 7月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2872600354		
法人名	医療法人社団順心会		
事業所名	グループホーム しらゆりの家		
所在地	兵庫県加西市北条町東高室字四ツ池1231-1 (電話) 0794-37-3555		
評価機関名	有限会社オフィスレオン		
所在地	兵庫県神戸市北区西大池2-12-1-516		
訪問調査日	平成21年 6月17日	評価確定日	平成21年 7月31日

## 【情報提供票より】(平成21年 5月20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤2人, 非常勤6人, 常勤換算6.8人	

## (2) 建物概要

建物構造	RC 造り	
	2 階建ての	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,300 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

## (4) 利用者の概要(平成21年 5月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3	要介護2	5
要介護3	1	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 89.1 歳	最低 74 歳	最高 99 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立加西病院、窪田歯科診療所
---------	----------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かで空気の澄んだ場所にある。住宅地などからは離れており、買物や散歩に行くのには車が必要である。事業所内に、季節に対応した飾り付けがきれいなされている。清潔感もある。

利用者が非常に落ち着いて過ごしており、職員の対応にもゆとりを感じる。部屋への移動、配膳などの際に、職員と利用者間で、しばしば『ありがとう』という言葉が聞かれる。

ふらっと散歩といった手軽な外出が困難だが、遠足などの外出の機会が多く設けられている。外出頻度に関しては、家族の満足度も高い。

併設の老健・通所リハビリ施設の設備も活用して、サービスの充実を図っている。職員研修が充実しており、かつ、死生観を問う映画鑑賞を研修の一環とするなどユニークな取り組みをしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回、職員の評価に対する理解の促進が改善課題とされたが、調査の際に管理者だけではなく他の職員も常に同席するなどその改善に向けての努力がうかがえたが、職員全般としては今回もやや理解が不足しているように感じられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	スタッフ会議で評価の意義や目的の説明を行い、各職員に意見を聴取し、管理者が中心となり自己評価をまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	家族代表、老人会代表、民生委員、地域住民代表などが運営推進会議に参加している。利用者の暮らしぶり、評価、退所の目安、帰宅願望のある利用者の対応などの議題に関して活発なやり取りが行われ、そこで出された意見が事業所の運営に反映されている。ビデオやスライドショーを用いるなど、事業所独自の工夫もされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8)
	季刊紙を発行し、利用者の暮らしぶりを伝えている。また、些細な状態変化などでもそのつど報告している。家族が来所しやすい雰囲気作りに努め、意見、要望、苦情などを表出しやすいようにしている。家族会において、家族同士が交流し、事業所の運営について協議し、事業所に対して意見などが言えるような環境が整うことを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	近隣の幼稚園から園児を迎え入れ、七夕・クリスマス会などで交流の機会を持っている。事業所から幼稚園に出向く形の交流も検討している。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。『待つ介護』を基本精神にするなど、独自の理念を掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに理念を掲示し、勉強会などの際に確認をし、理念の実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の幼稚園と七夕、クリスマスなどで交流の機会を持っている。	○	検討中の事業所から幼稚園に出向く形の交流が実現されることを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議で評価の意義や目的の説明を行い、各職員に意見を聴取し、管理者が中心となり自己評価をまとめた。管理者以外の職員も概ね評価の意義を理解している。	○	全職員が、評価の意義をより深く理解することを期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、老人会代表、民生委員、地域住民代表などが運営推進会議に参加している。利用者の日々の様子を記録したビデオを見てもらっている。活発なやり取りが行われ、そこで出された意見が事業所の運営に反映されている。評価についても、報告などがなされている。		
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	4・5ヶ月に1回開催されている事業者連絡会に参加し、市担当者と課題解決に向けて交流している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回季刊紙を発行し、利用者の暮らしぶりを伝えている。また、些細な状態変化などでもそのつど報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所しやすい雰囲気作りに努め、意見、要望、苦情などを表出しやすいようにしている。	○	家族同士が交流して、事業所の運営について協議し、事業所に対して意見が言える環境が整うことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年間離職、異動はない。離職、移動などの際は、利用者や家族に対して説明をするなどして、ダメージが最小限となるように手立てを取ることにしている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員対象に定期的に研修の機会を設けている。また、研修の内容についても独自性がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、サービスの質の向上に活用している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の老健施設から移行した利用者が大半であり、馴染みながらのサービス開始を進めることが少ないが、自宅から利用を開始した利用者のうち、『帰りたい』と帰宅願望の強い利用者がかつていた。その利用者に対しては、入所から3日間家族に宿泊してもらうなどして、1ヶ月程度で馴染んだ実績がある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の持つ人生経験、思いやりなどから学ぼうという姿勢がうかがえる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、ケアを通じて利用者の思いや意向の把握に努めている。個々の利用者の様子などを記録したカルテに、本人の言葉をそのまま記載しており、思いや意向の把握がよりの確に把握できるようになっている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成前に、介護職員によるモニタリングが細かく具体的にされている。家族や主治医などにも意見を聞き、介護計画に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、3ヶ月ごとにカンファレンスにおいて見直しを行っている。変更が必要な際も、カンファレンスが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設老健施設にあるカラオケ、併設通所リハビリ施設のマシンなどを利用するなどして、利用者の気晴らしや健康状態の維持に役立てている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の近隣にある病院数は限られているため、結果的に診療科目ごとに特定のかかりつけ医となることが多いが、かかりつけ医の選択は、利用者や家族の希望を尊重している。また、かかりつけ医との連携を充実させるため、それぞれの医療機関ごとに担当の介護職員を置いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における対応については入所の際に説明をしている。終末期には、対応していない。これまで、重度化や終末期の事例はない。	○	今後、重度化などが予想されるケースが発生した際には、家族やかかりつけ医などと繰り返し話し合いの機会を持ち、方針の統一及び確認に努めて欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉かけや態度については、設立法人実施の新人研修において、教育がなされている。個人情報保護については、職員全員が守秘義務誓約書を提出している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パズル、折り紙、ボンボン作り、散歩、昼寝など利用者の希望に応じて対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も食事の準備、片付けをしている。職員は利用者と同じテーブルで食事をして、食事が楽しく進むように努めている。	○	より利用者同士などの会話が弾むように期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	5人と4人の2グループに分けて、それぞれ隔日で入浴している。体調が悪いときは日を変えたり、湯が熱いのはいやだという利用者は後にしたり、希望に応じている。	○	入浴日を変えて欲しいとか夕方にお風呂に入りたいといった希望がある場合には、柔軟な対応を期待したい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水やり、買物、タオルたたみなど、生活歴や残存能力に応じた役割を果たしてもらっている。漢字の読み書き、パズル、和歌を詠むなど、それぞれの利用者の個性に応じた気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	立地条件上、徒歩での外出は不可能で、毎日施設外へ散歩へ行くことはできないが、ドライブや遠足など、できるだけ多くの外出機会を設けている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階建ての2階部分であり、1階に下りるのは階段のみである。加えて、老健施設と扉一枚だけ隔てた状態である。鍵はかけられたままである。	○	利用者の外出希望に迅速かつ柔軟に対応して、実質的に鍵が開いているのと同じ状態を作り出すことを期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録している。暑い時期は、特に水分補給に留意している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あちこちに椅子を設置して、話しをする場となっている。花や飾りつけをして、季節を感じることが出来るようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	非常に使い古された年代ものの机が持ち込まれている部屋もあるが、全体としては使い慣れたものや好みのものが入り入れられている印象が薄い。	○	老健施設からの移行者が大半であり、老健に入所する際にそれまでの生活歴などが断絶されて画一的な居室になっているので、本人や家族と相談をして、老健入所以前のような、生活歴や好みを反映した居室を向上させることを期待したい。

※  は、重点項目。